

---

# 『大大阪透過光線』オープニング・ナレーション

(BGM: 軽快なスウィング・ジャズ、次第に蓄音機のノイズのような不穏な音へ)

## 【情景: 心齋橋の喧騒】

西暦1933年、11月。

ここは「大大阪(だいおおさか)」。日本最大の人口と、東洋一の富を誇る黄金時代の商都。新築されたばかりの大丸百貨店が夕日に輝き、御堂筋には最新のシボレーやフォードがクラクションを鳴らしながら行き交っています。

つい半年前に開通したばかりの「地下鉄1号線」からは、10銭で手に入る最新のスピードと、仄暗い電気の匂いが地上へと吹き出しています。

街ゆくモダンガール(モガ)の紅い唇。カフェから流れる蓄音機の調べ。

すべてが光り輝き、未来は科学によってバラ色に染まると、誰もが信じていた時代――。

## 【異変: 透過する現実】

しかし、その光が強ければ強いほど、影もまた深く、鋭くなります。

(BGMが止まり、心臓の鼓動のような重低音が響く)

心齋橋筋。人混みの中で、一人の紳士が突然立ち止まります。

彼が声を上げる暇もありませんでした。

見えない巨大な「刃」が空を薙いだかと思うと、紳士のトレンチコートが、そして背中の皮膚が、まるで熟した果実のように一気に裂けました。

周囲に犯人の姿はありません。凶器すら見えません。

ただ、噴き出す鮮血だけが、虚空に漂う「何か」の形を不気味に浮かび上がらせます。

悲鳴が上がる中、皆さんはその惨劇を目の当たりにします。

## 【出会い: 住吉からの使者】

混乱する群衆をかき分け、一人の女性が皆さんに駆け寄ります。

彼女は震える手で、真鍮製の奇妙なゴーグル――「透過眼鏡」を皆さんに差し出しました。

「これを使って……視てください！ 院長が仰った通りです。大阪の地下から、理屈の通じない『闇』が溢れ出しています……！」

皆さんがその眼鏡を手に取り、レンズを覗き込んだ瞬間。

モノクロームに変わった世界の中で、皆さんは初めて目にするでしょう。

屋根の上で、青白く透き通りながら、次の獲物を品定めするように笑う「目に見えない怪物」の姿を。――さあ、パルプ・ヒーロー諸君。

科学と勇気を武器に、この大大阪を蝕む「見えない恐怖」を撃ち抜く時が来ました。

新クトゥルフ神話TRPG パルプクトゥルフ

『大大阪透過光線』

――その光の向こう側に、真実を視ろ。

---